

派遣報告書（報告者；中屋敷 大）

大会名	第56回全九州高等学校バスケットボール春季選手権大会
開催地	熊本県
日時	令和 8年 2月 14日（土）～ 15日（日）
担当ゲーム1	（男子）東海大星翔（熊本②） vs 長崎工業（長崎①）
相手審判	CC：中屋敷 大（大分） U1：荒木 晋之（福岡） U2：與那覇 奏人（沖縄）
（担当ゲーム1）Pre-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> ・アイコンタクトを意識し、ベーシックなメカニクスを実践する ・エッジからの3Pの分担の確認 ・ヘルプディフェンダーのプライマリの確認 ・コミュニケーションからスムーズなゲーム展開 	
（担当ゲーム1）Post-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> ・アイコンタクトをとりながらスムーズなゲーム運営ができた ・ベンチからのアピールに対して無視をするのではなく、自分たちがそれぞれの答えを持ったコミュニケーションを行った。しかし、その情報をもとにしたゲームコントロールには課題が残った。 ・エッジの分担に関してはリードが積極的に見ることができた。 ・1Qの終盤ベンチからのアピールが影響し、判定基準がブレることがあった。平常心でいれるための工夫が必要だと感じた。 	

担当ゲーム2	（男子）宮崎工業（宮崎②） vs 沖縄水産（沖縄①）
相手審判	CC：樋口 俊司（大分） U1：中屋敷 大（大分） U2：中村 光希（熊本）
（担当ゲーム1）Pre-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> ・ベーシックなメカ ・コフィンコーナーのメカの確認 ・エッジの分担 ・インターフェア、ゴールテンディングの確認 	
（担当ゲーム1）Post-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチからのアピールをどう毅然と振る舞うか ・アピールを飲み込みすぎたり、協力してもらおうとなんとか説明しようとしたりしすぎるがあまり、自らノイズを作り判定が過敏になりすぎた。 ・最後まで3人で自分たちの判定基準をもとに吹き続けることができた。 	

担当ゲーム3	(男子) 柳ヶ浦 (大分①) vs 沖縄水産 (沖縄①)
相手審判	CC: 中屋敷 大 (大分) U1: 金岩 貴之 (佐賀) U2: 荒木 晋之 (福岡)
(担当ゲーム1) Pre-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> ・キーププレイヤー ・積極的にボールサイド2を作る ・エッジの分担 ・明らかなものを積み重ねテンポセットをする 	
(担当ゲーム1) Post-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチからのアピールをどう毅然と振る舞うか。ゲームコントロールを考えたとき、こちらが先手を打てる準備をどうするか。また TF も引き出しにはあるものの、そのタイミングを伺おうとするがあまり、決断しにくい環境をつくってしまった。 ・判定のミスはなかったものの、笛にしなくてもよい現象もあった。 ・プレゼンや声も含めた存在感の出し方にこだわりを持つ。存在感とは声の大きさではなく、必要な時に効果的で的確なものになるように意識する。 	

今大会に参加しての感想など
<p>今大会は、CC としての存在感をいかに出すか、ということをも自分の中での目標に設定した。自分が考える存在感とは、まずは正しい判定の積み重ねをすること。この積み重ねがベンチから最大の信頼感を与えることにもつながると思った。正しい判定に繋げるために、クルーでコミュニケーションを取ったり、タイマーの修正なども積極的に行ったりして、自分の持っている情報を表現することができた。</p> <p>また、今後の課題は次へのステップアップのためにゲームコントロールをどう示していけるかということだと感じた。そのために毅然とした振る舞いを行うことにこだわりを持ちたいと思った。深く考えすぎるがあまり、自分で難しい状況を作ってしまうことは改善しないといけない。それを達成するために自ら機会を作り、まずはやってみることを大切にしたい。</p> <p>今回、派遣してくださった大分県バスケットボール協会の皆様、審判委員会の方々へ深く感謝し報告とさせていただきます。</p>